

AVニュース エクスプレス

- 2003年教育映像祭「優秀映像教材選奨」に174作品が参加
- 平成14年度文部科学省委託事業について
- 「子ども放送局インターネットTV」の開始
- 「教育の情報化推進セミナー2003」開催
- 「第41回日本産業映画・ビデオコンクール」入賞作品

協会情報

■2003年教育映像祭「優秀映像教材選奨」に174作品が参加

日本視聴覚教育協会では、毎年、教育映画、ビデオ、スライド、コンピュータソフトウェア(CD-ROM)の映像教材の製作振興と利用の向上進展を図る目的で、標記選奨を開催している。今年度の部門別参加作品数は次のとおり。()内は前年。

〈映画の部〉10社・32作品	
学校教育部門	14作品 (8)
小学校向け	12作品
中学校向け	2作品
高等学校向け	0作品
社会教育部門	11作品 (7)
職能教育部門	0作品 (0)
教養部門	2作品 (5)
児童劇・動画部門	5作品 (5)
〈ビデオの部〉(スライドを含む)	
33社・125作品	
学校教育部門	51作品 (79)

小学校向け	21作品
中学校向け	16作品
高等学校向け	14作品
社会教育部門	33作品 (30)
家庭生活	7作品
市民生活	26作品
職能教育部門	28作品 (23)
教養部門	13作品 (23)
〈コンピュータソフトウェアの部〉10社・17作品	
学校教育部門	13作品 (19)
小学校向け	8作品
中学校・高等学校向け	5作品
一般教養部門	4作品

■平成14年度文部科学省委託事業について

「情報化社会における学習資源提供の在り方に関する調査研究」

日本視聴覚教育協会では、文部科学省の委託を受け、新しい時代に合った最先端の各種電子媒体を活用した学習資源提供の在り方について調査研究を実施

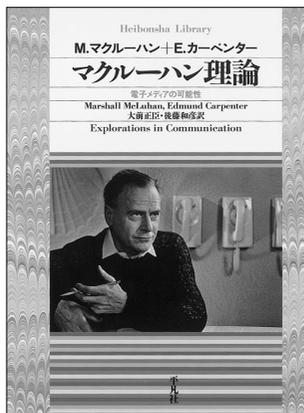
した。実施にあたっては、調査研究委員会(主査・坂元昂メディア教育開発センター所長)を組織し、新しく開発されている各種の教育機器、学習機器、デジタル教具、応用ソフトウェア、ツールなどの開発と活用の現状について、民間や諸外国を含めた先端的な取り組みの諸事情を調査し、今後の新しい情報機器などの開発の方向性や活用方策について明らかにした。このほどその成果をとりまとめた報告書を作成した。報告内容については当協会のホームページにて公開中。

(<http://www.javea.or.jp/chosa>)

「『視聴覚教育メディア研修カリキュラムの標準』の改正に向けた調査研究」

日本視聴覚教育協会では、文部科学省の委託を受け、調査研究委員会(座長・中野照海国際基督教大学名誉教授)において、

ブックレビュー



「マクルーハン理論—電子メディアの可能性—」

M・マクルーハン+E・カーペンター (大前正臣・後藤和彦訳) 平凡社ライブラリー 2003年3月刊
新書判 331頁 1,200円(税別)

マクルーハンのメディア理論といえば、1960年代後半から80年代にかけて、まさに一世を風靡したものだ。「メディアはメッセージである」といったことが大変流行したりもした。

しかし、マクルーハンの著書(訳書)や解説書が次々に世に出た割に、彼の理論についての理解は十分には行われなかったように思われる。

本書も、1967年に同じ訳者によって『マクルーハン入門』として刊行(サイマル出版会)され、81年には新たに『マクルーハン理論』の名で改訂新版が出されたものの復活である。それも今度、より読みやすい新書判の形で刊行されることになったのである。

この本はマクルーハンと彼のトロント大学での同僚だったカ

ーペンターとの共著の形をとっているが、他にも彼の弟子だった人びとを含めた数人の研究者による論文集である。第1部は「マクルーハニズム」と題して、主としてマクルーハン自身の論文を収めており、第2部に「コミュニケーションの新しい探求」として、諸家の論文が収録されている。その中には鈴木大拙「仏教における象徴主義」もみられる。

そのように、マクルーハンの理論は単なるメディアそのものだけを論ずるのではなく、より根元的なコミュニケーションのあり方を思考する哲学というべきであろう。今日のテレビやさらにはエレクトロニクス・メディアの発展の時代に再考すべき視点を提起している。

(高桑康雄)

標記調査研究を実施した。

昭和48年、文部省(当時)は「視聴覚教育研修カリキュラムの標準」を示した。その後、平成4年に一部見直しを行い、現在の「視聴覚教育メディア研修カリキュラムの標準」を定めた。それから、約10年の時が経過し、最先端の視聴覚メディアに沿った研修内容を盛り込むことが必要かつ重要であると考え、現行の研修内容について見直し、高度情報化社会に対応した内容への改正に向けた方向性を示すべく273施設に及ぶアンケート調査を実施し、このほどその成果をとりまとめた報告書を作成した。報告内容は同じく、当協会のホームページで公開中。

AV情報

■「子ども放送局インターネットTV」の開始

独立行政法人国立オリンピッ

ク記念青少年総合センターは、子ども放送局番組のブロードバンド配信をオンデマンド形式で開始した。子ども放送局は、毎週土曜日、全国の公民館や図書館に文部科学省のエル・ネットを使って番組を提供している。子どもたちがあこがれるヒーロー・ヒロインが子どもたちに語りかけ、子どもたちからの質問に答える番組や、全国津々浦々の子どもたちの体験活動を紹介する番組を放送しており、子どもたちが主役の番組といえる。これまでは、専用の受信機を設置した会場でないと視聴できなかったが、より、多くの子どもたちが視聴できるようホームページを通じて動画で配信することになった。

〈配信する環境〉

・ホームページからのリクエストに応じて配信するオンデマンド形式でストリーミング配信と

する。

・番組の全映像と目次(頭出し機能を付加)からの視聴を可能とする。

・参加型番組では、作り方などを説明する映像に関係する図表等を同期して表示する。

〈問い合わせ先〉

独立行政法人国立オリンピック記念青少年総合センター 事業部事業課子ども放送局係
〒151-0052東京都渋谷区代々木神園町3-1

TEL 03-3467-1600

FAX 03-3467-7736

<http://www.kodomo.nyc.go.jp>

研究会情報

■「教育の情報化推進セミナー2003」開催

(財)日本視聴覚教材センターでは、「インターネット時代の著作権と学校教育」について基調講演を行い、また実践に基づい

トピックス

東京大学で小中学生のためのサマースクール開校

特定非営利活動法人CANVASが主催、東京大学、フューチャーキッズ等の協力により7月24日から8月23日の期間、東京大学駒場キャンパスにおいて小中学生を対象にした「東京大学サマーキャンプ」を開校する。

CANVASは平成14年11月に設立されたNPO法人で、子どもたちの創造力・表現力を向上させるさまざまな活動を行っている。今回は「映画制作コース」と「アニメ制作コース」の2つのプログラムを用意。

「映画制作コース」は4人1

組のチームで協力しながら、ストーリー、絵コンテづくりからはじめ、自らの演技、デジタルビデオカメラによる撮影、コンピュータを使っての編集を通して、5分程度の短編映画を制作する。「アニメ制作コース」も4人1組でチームをつくり、ストーリーや、デジタルだけでなく紙や粘土も使ったキャラクターづくり、撮影、編集を行い、短編アニメを制作する。

指導にはプロの講師とともに、東京大学をはじめ首都圏の大学生が1チームに1人ずつアシスタント講師として配置される。ふだん学校ではできない体験や学習をする場を提供する。子どもたちは「心で感じ、頭で考え、手で表現する」過程を通して、創造力・表現力・マルチメディ



アリテラシーを養うと同時に、将来の職業観や進学観を培う機会にもつながる。(橋本知子)

〈募集にあたって〉

募集対象：都内近郊に住む小学生4年生～中学3年生
対象年齢：9歳～15歳
募集人数：24名×4講座＝96名
受講費用：3日間 18,000円
お問合せ：フューチャーキッズ内東京大学サマーキャンプ事務局
<http://www.futurekids.co.jp/camp/>
電話 03-5466-9311

た各学校での事例発表を中心に、「教育の情報化」に積極的に取り組む先生方の支援につながることを目的に標記セミナーを開催する。

〈開催日時〉

平成15年7月29日(火)

午前10時～午後5時

〈会場〉

アルカディア市ヶ谷(私学会館6F)
東京都千代田区九段北4-2-25

〈募集人員〉

120名(対象：国・公・私立の小・中・高等学校、関係者)

〈基調講演〉

演題：「インターネット時代の著作権と学校教育」

講師：岡本薫氏(文化庁長官官房著作権課長)

〈事例発表〉

①「ITでつくる開かれた元気な学校」玉置崇氏(愛知県小牧市立小牧中学校)

②「達成感の高い授業を目指し

て～成果と評価～」半田亨氏(早稲田大学本庄高等学院)

他

〈参加費〉

3,800円(昼食代、資料代等込み)

〈参加申し込み〉

下記の問い合わせ先より「申込書」を入手し、平成15年7月18日(金)までにFAXまたは、ホームページより申し込む。申込書はホームページからも入手可能。

<http://www.jtmc.or.jp>

〈問い合わせ先〉

(財)日本視聴覚教材センター
東京都港区虎ノ門1-17-1

TEL 03-5251-5907

FAX 03-5251-5908

コンクール情報

■「第41回日本産業映画・ビデオコンクール」入賞作品

(社)日本産業映画協議会主催による標記コンクールの入賞作品が次のように決まった。

〈日本産業映画・ビデオ大賞〉

「未知への航海 すばる望遠鏡建設の記録」U・N・Limited

〈文部科学大臣賞〉

「風の舞 闇を拓く光の詩」東京シネ・ビデオ(株)

〈経済産業大臣賞〉

「危険物の漏えいによる環境汚染を防ぐために 地下埋設危険物施設の腐食と事故防止対策」(株)毎日映画社

他9作品が入賞。また、奨励賞には22作品が該当した。

短 信

■(財)民間放送教育協会事業部の事務室は、テレビ朝日の移転にともない、5月19日より下記住所に移転した。

〒106-8001東京都港区六本木6-9-1六本木ヒルズ森タワー16階(民教協事業部)

TEL 03-6406-2171

FAX 03-3405-3794